

『太田いそ研究奨励賞をいただいて』

大阪市立西九条小学校 小野くに子

この度は、憧れの『太田いそ研究奨励賞』を賜り、大変光栄に存じます。太田いそ賞を受賞なさる方は、どんな方々なんだろうと大阪府栄養士会に入会させていただいてから、ずっと想い続けてまいりました。まさか自分がいただけるとは、夢にも思っておりませんでした。

学校栄養士は、教諭 30～40 人に対して 1 人しかおらず、栄養士という職種を日々必死で守っています。「給食指導のためにお昼休みがなくなる」「給食なんかなければいい」と教諭の本音は飛び交います。「ええように使われるからええようし」と調理員さん。

食育基本法が成立し、栄養教諭は生まれましたが、その身分はまだ不安定なものです。時として折れそうになる心をおさえて、孤軍奮闘の毎日を送っています。私も就職した頃は、毎日辞職することばかり考えていました。しかし、先輩方の背中に感動し、苦難の道をともしようとする後輩たちのけなげな姿に心を打たれ、素晴らしい仲間に出会えてここまでこれたように思います。そして、何より子どもたちの笑顔が、私を支えてくれました。栄養士の新たな実践は、保守的な学校体制にはなかなか始めないこともあります。「後は責任とるから、思うこ

とをやれ」といってくださる校長先生もおられました。支えてくださった皆様へ感謝の気持ちを込めて、これまでの実践をまとめて発表させていただきました。今回の受賞は、私ではなく、支えてくださった皆様のものだと思っています。そして、太田先生への敬意の念を改めて持ちました。

成長期の子どもたちにとって、健全な食生活は、健康な心身をはぐくむために欠かせないものです。また、将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼすもので、人生の重要な時期と一緒にすごさせていただくのが栄養士・栄養教諭です。

少数の職種だからこそ学校教育への信頼性を試されます。健康教育の方向性を託されます。指導力の向上とともに栄養士としての腕をこれからも磨いていきたいと思っています。いろいろな職場・地域でご活躍の栄養士の皆様の集う栄養士会での出会いは、様々な知識やアドバイスをいただく機会となり、視野が広がります。子どもの明日に役立つ活動ができますよう、これからも一層努力を重ねてまいりたいと思っています。何卒、ご指導賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、ご推薦賜りました座長の先生に深く感謝申し上げます。

『太田いそ研究奨励賞を受賞して』

岸和田徳洲会病院 橋本真弓

この度は「太田いそ研究奨励賞」をいただき身に余る光栄です。ありがとうございました。

今回の発表「調理師の活性化を図る試み～職員食の改善を利用して～」は昨年、当院で取組んだ職員食の改善をもとに調理師の活性化を数値化したものです。人の心を数値化することは大変難しいことと思いましたが、思い切って挑戦しました。

通常業務の合間を縫って、頻回な打合せや試作を行うことは本当に大変でありました。調理師をはじめとする栄養科全体のチームワークが良かったこと、提供する側も楽しみながら取組むことができたからこそ良い結果に繋がったと

思います。また喫食者からの「ごちそうさま」よりも「おいしかったよ」の言葉が多かったことが私達の原動力となりました。これからも栄養科職員一丸となり「安全でおいしい食事の提供」を目指していきたいと思っています。このような恵まれた職場環境に心から感謝するとともに、病院幹部の多大なる理解があり実行できたことに感謝いたします。また、発表の機会を与えてくださった大阪府栄養士会の皆様へ深く御礼申し上げます。

最後になりましたが、ご協力いただきました関係者の皆様、ご推薦いただきました座長の先生に改めまして御礼申し上げます。

『太田いそ研究奨励賞を受賞して』

大阪市立大学医学部附属病院 栄養部 藤本浩毅

この度は、太田いそ研究奨励賞をいただきましてありがとうございます。今回、「1型糖尿病における脂質エネルギー比の違いによる血糖値上昇の変化」の演題で、初めて研究発表会で発表させていただきました。この内容は、日々の栄養食事指導の中で、患者さん自身が疑問に思っていたことであり、質問をされても返答が出来なかったため、1名の1型糖尿病患者さんの協力を得て、検討を行いました。対象者数が1名での結果であるため、信頼性が低いのですが、賞をいただけることを聞き驚きました。しかしこのことは、たった1名の結果であっても、とても意義のある内容であること、現場で即実践に活用できることを評価いただいたものと思っております。今回の研究結果は、すでに患者さんへの栄養食事指導に役立てていますが、多くの病院や研究機関で類似研究を行っていただき、信頼性の高い結果が今後出ることを期待してい

ます。

糖尿病の治療薬は、日々進化していますが、糖尿病の患者数は年々増加しています。これは、糖尿病の治療薬が進化しても、根本の食事療法が出来ていないためだと思います。食事療法ができない理由は、社会環境もあるでしょうが、血糖コントロールを中心とした食事療法が確立していないことも原因ではないかと考えています。

糖尿病患者さんにとっては、血糖コントロールを行うことが第一であり、その方法を患者さんに合わせて提案していきたいと思いますが、血糖値と食事の関係については、まだまだ明らかになっていないことが多いため、今後も新たな取り組みが必要です。

これからも日々の仕事を通して、栄養食事指導にすぐ活かせる身近な研究を行っていき、大阪から日本全国に新たな情報を発信していきたいと思っております。